

第6学年 組 体育科指導と評価の案

日時：平成16年12月3日(金)公開2
 場所：体育館
 授業者：寺 境 広 美

1. 単元名 ボール運動 「ソフトバレーボール」(6/10時)

2. 本時の目標

技能の内容：カバーし合ってボールをつなぐために、ボールの行った方向に体を向け、レシーブされた球筋を予測しながら素早く球筋の方向に動き、相手コートへ返すゲームができる。
 態度の内容：目指す動きについて教え合い、励ましの声をかけ合うことができる。
 学び方の内容：目指すゲームの動き方や技術ポイントが分かり、練習やゲームに取り組むことができる。

3. 本時の評価規準

[技能]：ボールの行った方向に体を向け、球筋を予測しながら素早く球筋の方向に動き、カバーをすることができる。

4. 本時の展開

過程	主な学習活動	学習種別	子どものつまずきに応じた指導・援助															
計	<p><準備運動> パス・レシーブを組合わせた練習をする。 (対人パス、扇形パス、ネット越しの練習など)</p> <p><全体計画会> ・前時の姿から本時のG課題や練習方法を発表する。 今日の全体課題を知る。</p>	グループ 全体	<p><前半練習・グループ練習></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Aコート</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Bコート</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Cコート</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・6G(5名ずつ) ・バトミントンコート ・練習は3コート ・ゲームは2コート ・高さ 約190cm 															
	<p>ボールの行った方向に体を向け、レシーブされた球筋を予測しながら素早く球筋の方向に動き、チームでつなぎ合って相手コートに返すゲームをしよう。 目指す動きについて教え合い、励ましの声をかけ合う仲間になろう。</p>		<p><後半練習・ゲーム> ・1試合15点ラリーポイント制(7分以内) ・出場人数5名・審判2名・記録2名・得点1名 ・サーブは投げ入れ</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>Aステージ側</th> <th>Cロビー側</th> <th>審判・記録</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4G - 6G</td> <td>1G - 3G</td> <td>5G</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2G - 4G</td> <td>3G - 5G</td> <td>1G</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1G - 5G</td> <td>2G - 6G</td> <td>4G</td> </tr> </tbody> </table>		Aステージ側	Cロビー側	審判・記録	1	4G - 6G	1G - 3G	5G	2	2G - 4G	3G - 5G	1G	3	1G - 5G	2G - 6G
	Aステージ側	Cロビー側	審判・記録															
1	4G - 6G	1G - 3G	5G															
2	2G - 4G	3G - 5G	1G															
3	1G - 5G	2G - 6G	4G															
画	<p>本時課題とする動きが分かる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールが行った方向に瞬時に体を向ける。(いつ) ・レシーブされた球筋を予測する。(どこへ) ・すばやく球筋の方向に動く。(どう動く) </div>	グループ																
	<p><グループ計画会> ・リーダーを中心にG課題と個人課題、きまり、動き方を作戦板で確かめる。 練習の場や方法の例が分かり、チームの課題に合った練習方法を選択する。</p>	グループ																
展	<p><前半練習> 選択したチーム課題に合った練習をする。 ・カバーの練習、対人パス、ネット越しパスなど ・3つ動きの視点で自分の動きや仲間の動きを確認する。 お互いのプレーを見合い、気付いた事を教え合う。 ・うまく動けない仲間に具体的に動きを使ってアドバイスをする。</p>	グループ	<p>つまずきの様相</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 仲間が打ったボールを目や顔では追うが体が反応できない。 </div>															
	<p><中間研究会> カバーし合うことを意識し、ボールをつなごうと最後までボールを追いかけるとよいことが分かる。 仲間の声のかけ方や教え合いのよい姿を知る。</p>	全体	<p>指導・援助</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・ボールの行った方向に体を向ける動きを、教師と一緒にやり、カバーの動きを繰り返し確かめる。 ・カバーが遅れる子の名前を「さん」と直接呼んで、体が反応するタイミングを知らせるように他のメンバーに話す。 </div>															
開	<p><後半練習・ゲーム> 素早くカバーの姿勢に反応しないGは、中間研究会で分かったことを取り入れ、ゲームをする。 ・ゲームの入れ替わりには、作戦タイムをして、次のゲームに生かす。 リーダーやPOの動きの指示やMOの声かけに応え、声を出したり、教え合ったりする。</p>	グループ	<p>つまずきの様相</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 体はカバーの姿勢に反応するが、ボールの真下に入るタイミングが遅い。 </div>															
	<p><グループ反省会> 一人一人の課題の達成ぶりを交流し、よりよい動きになった子を認め合う。 ・次の時間の作戦や課題をPOやリーダーがゲーム記録と観察から話す。</p>	グループ	<p>指導・援助</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・低い姿勢で構え、つま先をボールの行った方向に向け、いつでも走り出してカバーできるように助言したり、一緒に動きをやってみる。 ・チーム全体に「体、体」「ひざ曲げ、ひざ曲げ」「低く、低く」と声をかけて意識できるように話す。 </div>															
評	<p><全体反省会> 特に動きが良かった子や高まった子を認め合い、できるようになった理由を知る。 仲間の動きの教え合いのよい子やグループを認め合う。 ・ゲーム記録と観察から、本時の成果を知り、次のゲームの課題をもつ。</p>	全体																

